

# 1

## ふれあい広場「おとぎの国」

整備事業

ゾーン面積：約2700m<sup>2</sup>

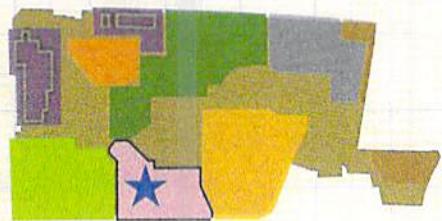
### ア-飼育展示動物

#### ■ 家畜・愛玩動物

ヤギ、ヒツジ、ロバ、ミニブタ、ウサギ、テンジクネズミ、  
アヒル、ガチョウ、ニワトリ等

#### ■ 野生動物

レッサーバンダ<sup>\*</sup>1、イワトビペンギン、フンボルトペンギン<sup>\*</sup>2、  
ホンドクロウ、キバタン、オオバタン等



\*1 レッサーバンダ：レッサーバンダ舎から移転。

\*2 フンボルトペンギン：ペンギン舎から移転



### 基本テーマ【Life いのち】

いのちの尊さ、いのちのつながり

- ・ 動物とのふれあい体験を通じて、いのちの尊さを伝える
- ・ ヒトとの関わりのなかで生きてきた家畜や愛玩動物との関係や歴史が学べる場を提供する
- ・ 見て、触れて、感じることのできる展示に取り組み、子どもから大人まで楽しみながら学べる場とする

## イ-飼育展示計画

- 動物とふれあえる時間帯を増やし、より多くの入園者が動物とのふれあいが可能となる施設とする。
- ヒツジやヤギなどの家畜、愛玩動物の一部は、人止め柵を設けず、より近くで展示する。
- ヒトと家畜、愛玩動物の関係や歴史等をパネルで紹介し、いのちのつながりを伝える。
- 骨や羽などの標本を、触れることができる状態で展示し、体感しながら、楽しく学ぶことのできる環境を目指す。
- ふれあいは家畜や愛玩動物でのみ行い、野生動物には安易に触れることがないよう、野生動物と家畜、愛玩動物との区分を明確にした展示とする。
- 野生動物は、レッサーバンダ、フンボルトペンギン等を展示する。これらについては、繁殖に取り組む。
- おとぎの国の団体利用制度である「なかよし教室」※3は、専用エリアを設け、内容の充実を図る。
- 京都市動物園ボランティアーズとの連携やボランティアの育成を強化して、イベント※4開催回数の増加や内容の充実を図る。
- 建築部材にできるだけ地元の木材を使用し、木のぬくもりが感じられる施設とする。



### ※3 なかよし教室

引率者のある3歳児以上の団体を対象にした教育プログラム。テンジクネズミやウサギ、ヤギ等とのふれあい体験ができる。事前に引率者に動物の取扱い方等を講習、当日は引率者が直接子ども達に動物の扱いや接し方を指導する。

### ※4 イベント

京都市動物園ボランティアーズと連携して、次のようなイベントを実施してきた。「動物鳴き声カルタ取り大会」、「動物の足型をとろう」、「ウールコースター作り」、「おとぎの国サーキットクイズ」等

## ウ-施設整備計画

- ヒグマ舎の撤去
- こども広場遊具の移設
- 「おとぎの国」の建替え



## エ-主要な施設

- オウム舎
- ウサギ・テンジクネズミ舎
- 家畜舎
- 家禽舎
- レッサーバンダ舎
- ペンギン舎
- 管理棟
- イベント広場（屋根付き広場）
- カメ池、アヒル・ガチョウ池等
- 手洗い※5



4

ゾーンテーマに応じた施設整備

### ※5 手洗い

感染症防止のための重要な施設。子供向けに蛇口を低くしたものを併設する。

2

## ネコワールド

整備事業

ゾーン面積：約1200m<sup>2</sup>

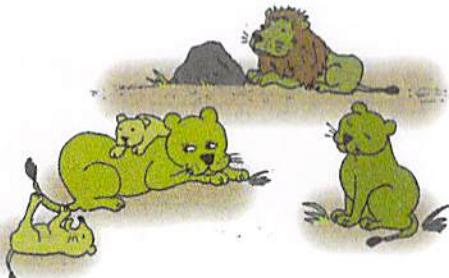
### ア-飼育展示動物

■ ライオン、  
アムールトラ、  
ジャガー、  
オオヤマネコ、  
ツシマヤマネコ



### 基本テーマ【 Diversity 多様性】

いろいろな違いを発見しよう



- 大型から小型のネコ科動物の展示を通して、生物の多様性を学ぶ
- 動物福祉の立場から環境エンリッチメントに取り組み、生き生きとした動物の姿を伝える
- 生息地の現況を伝えるとともに、生息地における保全活動と連携した活動に取り組む

## イ-飼育展示計画

- 槻の一部をガラス面にし、より近くで動物を展示する。
- 群れをつくるライオン、繁殖期以外は単独で暮らすトラやヤマネコなど、社会構造の違いを展示する。
- 下から観察できるように空中回廊を設け、頭上を移動したり、休息するジャガーなどを展示する。
- 動物福祉に配慮した取組である「ネコじゃらし」を安全性に考慮した遊具として開発、設置する。
- 絶滅危惧種であるアムールトラ、ツシマヤマネコの繁殖に取り組むとともに、生息地の現状をパネルで紹介する。
- ツシマヤマネコについては、生息地における保全活動と連携した活動に取り組む。



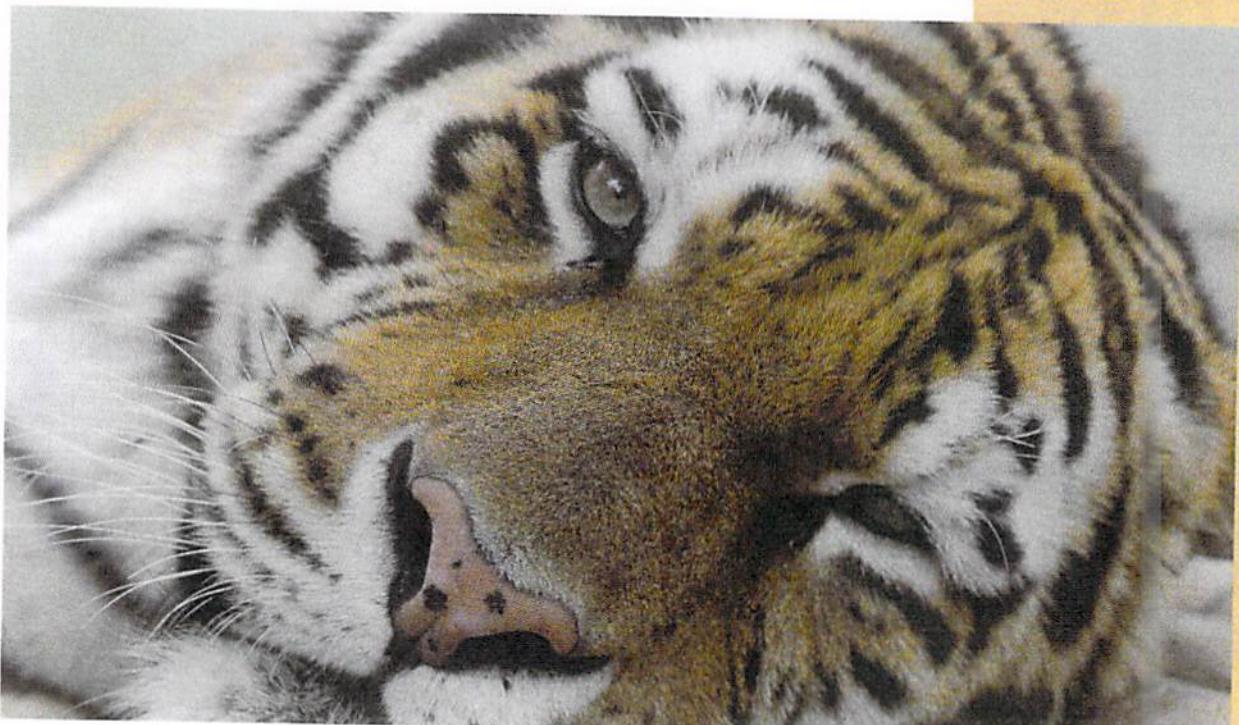
## ウ-施設整備計画

- 「スカイダンボ」の撤去
- 「猛禽舎」の撤去
- 「ヤブイヌ舎」の撤去
- 「猛獣舎」の建替え



## エ-主要な施設

- 大型ネコ舎
- 中・小型ネコ舎

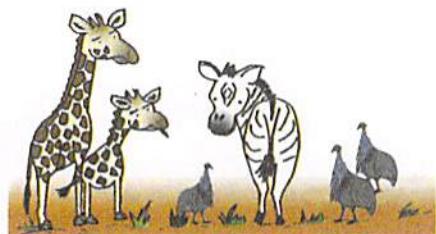


### 3

## アフリカの草原

整備事業

ゾーン面積：約4500m<sup>2</sup>



### ア-飼育展示動物

- アミメキリン、カバ、  
グレビーシマウマ、  
ダチョウ、  
ホロホロチョウ、  
フラミンゴ

### 基本テーマ【 Watch 観察】 からだのつくりをくらべてみよう

- アフリカのサバンナで暮らしている大型草食獣、鳥類の混合飼育を行う
- サバンナに住む動物たちの環境に適応したからだのつくりや、生活様式の違いがわかるよう展示する
- 観覧用木道（陸橋）を設置し、給餌体験やキリンの目線で観察ができる施設とする。
- キリンの塔を移設し、キリンの視界を再現するカメラを設置することで、その見え方を疑似体験できる。

## イ-飼育展示計画

- キリン舎は、群れ飼育と繁殖が可能なものとし、キリン観覧用木道（陸橋）を設け、給餌体験などができる施設とする。
- 種別調整者※1として国内の繁殖計画を担当しているグレビーシマウマの繁殖に積極的に取り組む。
- カバ舎は、陸上での採食風景が観察できる施設とする。昼間、キリンやシマウマが使用しているグラウンドを夜間はカバに開放するなど、限られた敷地を有効に活用する。
- 研究機関※2と共同研究している内容を紹介する。
- 各動物の首の長さ、模様等、からだのつくりの違いを示したパネル等を利用し、観察を通した学習の場を提供する。

### ※ 1 種別調整者

社団法人日本動物園水族館協会の種保存委員会で、国内の希少動物の繁殖計画を立案し個体管理を行う担当者

### ※ 2 共同研究している研究機関

・京都薬科大学 橋本貴美子教授 カバの赤い汗の成分とその機能の研究  
・大阪大学大学院人間科学研究科 中道正之教授 キリンの母子関係についての研究

## ウ-施設整備計画

- カバ舎の建替え
- キリン舎の建替え
- シマウマ舎の建替え
- フラミンゴ舎の建替え
- 走鳥類舎の建替え
- アシカ池、ラマ舎、クロエリハクチョウ舎の撤去
- アシカ池南売店の移設
- キリン塔（空飛ぶキリン）※3の移設

### ※ 3 キリン塔（空飛ぶキリン）

平成12年11月京都岡崎ライオンズクラブ（現京都岡崎白川ライオンズクラブ）から寄贈を受けた。同時に寄贈を受けたトランシーバー（簡易無線機）の中継アンテナの役割を担うため建造された。平成20年10月、新規に無線機を導入したことにより中継アンテナの役割を終え、モニュメントとしてのみ現在に至る。

## エ-主要な施設

- キリン舎
- カバ舎
- シマウマ舎
- ダチョウ舎
- フラミンゴ舎
- ホロホロチョウ舎
- キリン観覧用木道（陸橋）等
- キリン塔（カメラ付）

4

ゾーンテーマに応じた施設整備



## 4

# サルワールド

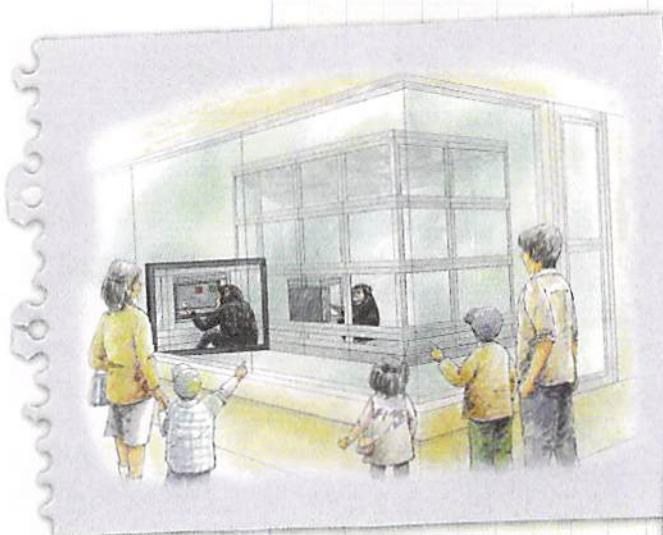
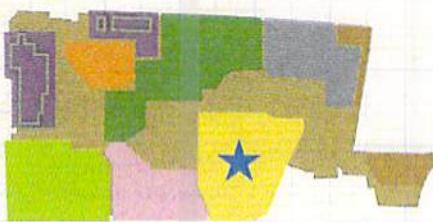
整備事業



ゾーン面積：約4900m<sup>2</sup>

### ア-飼育展示動物

- チンパンジー、ニシゴリラ、ボルネオオランウータン、シロテテナガザル、マンドリル、フサオマキザル、ワオキツネザル、アカゲザル



### 基本テーマ【 Evolution 進化】

同じ祖先を持つ仲間たちとの出会い

- ・ 原始的なサルからヒト科に属する大型類人猿3属にいたるまで、多様な霊長類を集合展示する
- ・ ヒト科との形態的な違いや、知的能力の度合いなども含めた比較展示を行う
- ・ 京都大学野生動物研究センターとの連携による、チンパンジーの知性研究の様子、フィールドワーク等の最先端の研究成果や、保全活動の様子を揭示する

## イ-飼育展示計画

- ヒト科との形態的な違いや、知的能力の度合いなども含めた比較展示を行う。
- それぞれの種にあった行動を引き出す展示を展開する。
- 京都大学野生動物研究センターとの連携によって得られるアフリカやアジアでの野生の類人猿の研究現場の様子を展示し、研究から得られた情報や保全活動の状況等を説明する展示を行う。
- 現地で保全活動を行っているNPO/NGO(※1)の協力を得て、アフリカの野生動物の現状やヒトと動物、自然との関わりを学ぶ環境教育プログラムを提供する。
- チンパンジーを群れで飼育し、グラウンドには、樹木をイメージさせる加工木及び天然木を多用したタワーを設け、チンパンジー本来の行動を展示する。また、設置したカメラ映像を利用し、タワー上からの視界や蜜釣り行動を別角度から観察できるようにする。
- チンパンジーの学習室内での比較認知科学の研究の様子を通して、チンパンジーの知性が感じられる展示とする。
- ゴリラの屋内展示室檻を強化ガラスに換え、近くで観察できる施設とする。
- ゴリラのグラウンドは、植栽による緑化を継続し、森をイメージできる空間づくりを行う。
- 樹上生活者であるオランウータンの枝渡りの様子などが、下からと水平方向から観察でき、理解できる展示に取り組む。
- いずれの種についても、遺伝的多様性を保ちながら計画的に繁殖に取り組む。
- サル島は、強化ガラスや高低差を生かした改修を行い、プールへの飛び込みやさまざまな角度からの観察が可能な施設とする。

## ウ-施設整備計画

- チンパンジーの群れ飼育のための類人猿舎の改修
- オランウータン舎の建替え
- サル島の改修
- 模擬研究サイトの展示（パネルや映像）

## エ-主要な施設

- 類人猿舎
- オランウータン舎
- サル舎
- サル島



### ※1 現地で保全活動を行っているNPO/NGO

#### ・縁の回廊プロジェクト

ギニア共和国のボッソウ・ニンバの野生チンパンジーを保護するために植林活動や教育普及活動を行っている。

#### ・ポポフ

コンゴ民主共和国（旧ザイール）東部のカフジ・ビエガ国立公園でゴリラの保護を目的にエコ・ツアーや環境教育を実践している地元の若者が中心になって1992年に創設されたNGOで、ポレボレ基金（Polepole Foundation）の略称

#### ・ビーリア（ボノボ）保護支援会

コンゴ民主共和国のワンバ地区でボノボ（別名ピグミーチンパンジー）との共存を続けてきた住民が自立的に発展を続けられるような医療面や教育面でのサポートを行っている。

#### ・カリンズ森林プロジェクト

ウガンダ共和国カリンズ森林保護区において、チンパンジーの保護を目的に、エコツーリズムプロジェクトの支援と地域の環境教育を行っている。



# 京都の森

整備事業

ゾーン面積: 約5600m<sup>2</sup>



## 基本テーマ【Discovery 発見】 豊かな森を感じてみよう

- ・ 京都の豊かな自然を伝え、ヒトと野生動物の関わりが学べる展示とする
- ・ 身近な自然に関する情報を展示・提供し、地域の自然環境保全に貢献できる施設とする
- ・ 希少淡水魚類の保全・繁殖を行う

## イ-飼育展示計画

- 京都市近郊の里山から深山への風景を再現し、そこに生息する動物を展示する。
- 水辺から里山、深山など京都の豊かな自然景観の中を歩きながら、ほ乳類だけでなく、鳥類、は虫類、両生類、魚類など様々な動物を同時に、かつ連続的に観察することで生態系が理解できる施設とする。
- 現況地形と樹木を活かしながら、原生林や里山がイメージできる空間の整備を行う。
- 園内で確認されるホタルの定着と増殖及び日本産希少淡水魚であるタナゴの保全繁殖に取り組むために、水辺の環境を整備する。
- 環境保全団体等（※1）との協働により、京都の最新の自然環境情報を提供する。
- 野生鳥獣救護センターと連携した展示を行う。
- 鳥類をより近くで観察するために、通り抜け式バードケージを整備し、カモ類の水中採餌行動も観察できる施設とする。



※1 環境保全団体等  
財団法人日本鳥類保護連盟、財団法人日本野鳥の会京都支部 等

## ウ-施設整備計画

- カモシカ苑の撤去
- 小獣舎横食堂及び売店の移設
- バードケージ、クマ舎、シカ舎、カモシカ舎、キツネ舎、アナグマ舎、タヌキ舎の整備
- 古民家風の展示施設
- 鳥類舎の撤去
- 噴水池の整備



## エ-主要な施設

- バードケージ
- クマ舎
- シカ舎
- カモシカ舎
- キツネ舎
- アナグマ舎
- タヌキ舎
- 古民家風の展示施設  
(イベントや展示スペースとして利用)

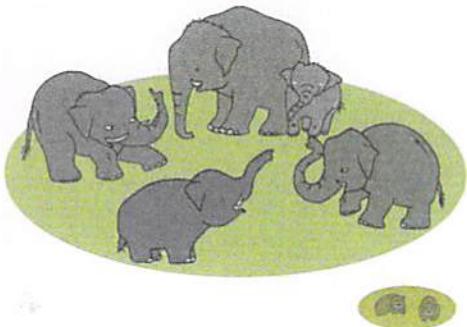


## 6

# ゾウの森

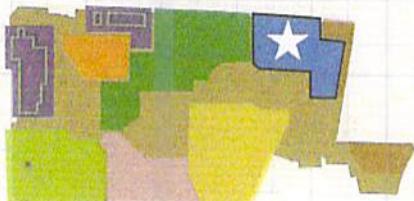
## 整備事業

ゾーン面積: 約6500m<sup>2</sup>



### ア-飼育展示動物

- アジアゾウ、ケープハイラックス、ブランバク、インドオオコウモリ、アカアシガメ、ホウシャガメ、グリーンイグアナ、ミドリニシキヘビ、ボルニシキヘビ、ニシアフリカコガタワニ、ショウガラゴ、スローロリス 等



### 基本テーマ【 Wonderful/Great 驚き 】

知性と大きさに感動

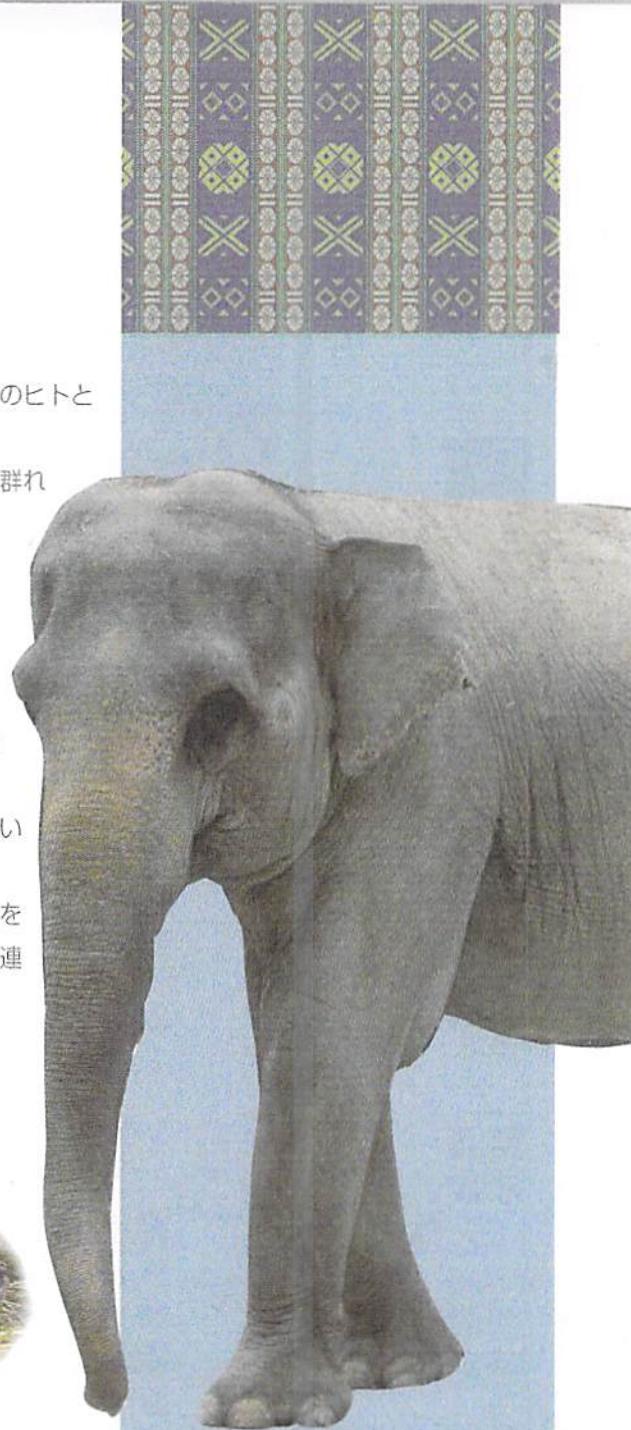
- ・ アジアにおける使役動物としてのゾウの歴史を紹介とともに、動物園で健康管理のために行うトレーニングを通して、その知性が感じられる展示とする
- ・ アジアゾウの群れ飼育が可能な施設を整備し、繁殖を目指す
- ・ は虫類館を整備し、夜行性獣・は虫類を展示する

## イ-飼育展示計画

- トレーニングのノウハウの蓄積を生かし、生態だけでなく使役動物としてのヒトとの関わりが学べる展示とする。
- アジアゾウは高度な社会性を持ち群れ飼育は必須となるため、ゾウ舎は、群れ飼育と繁殖が可能なものとする。
- 分類学的に近い「ゾウ」と「ハイラックス」を同時に見られるようにし、大きさの違いがわかる展示とする。
- 「ゾウ」の大きな特徴の1つである鼻について、「バク」との比較展示を行う。
- ワニ目、カメ亜目、トカゲ亜目から繁殖実績などのある種を選定しては虫類館で展示する。
- 種別調整者として国内の繁殖計画を担当しているホウシャガメの繁殖について、積極的に取り組む。
- 夜行性である原猿類（ショウガラゴ、スローロリス）を、は虫類館で昼夜を逆転して展示する。なお、サルワールド側に配置することで、ゾーンに関連性を持たせた展示とする。

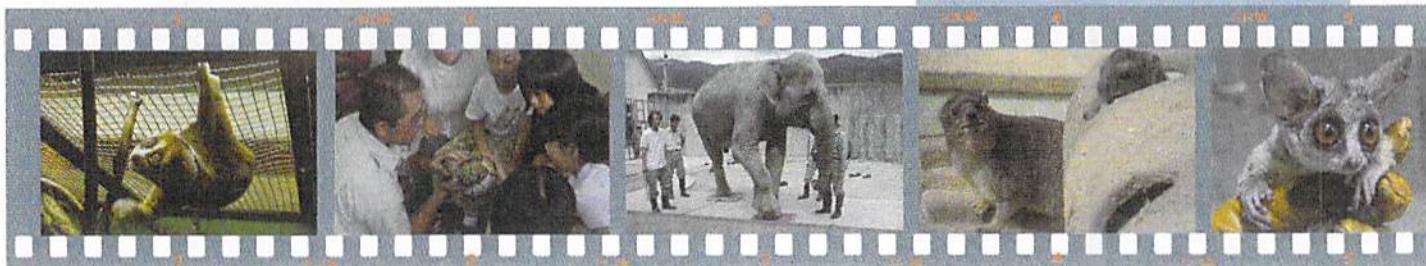
## ウ-施設整備計画

- ゾウ舎の建替え
- は虫類館の建替え
- ホッキョクグマ舎の撤去
- ペンギン舎の撤去
- タンチョウ・オオヅル舎の撤去
- ワラビー舎の撤去
- バク舎の建替え
- ゾウ舎横食堂及び売店の移設



## エ-主要な施設

- ゾウ舎
- バク舎
- は虫類館



ゾーン面積：約2600m<sup>2</sup>

## 基本テーマ

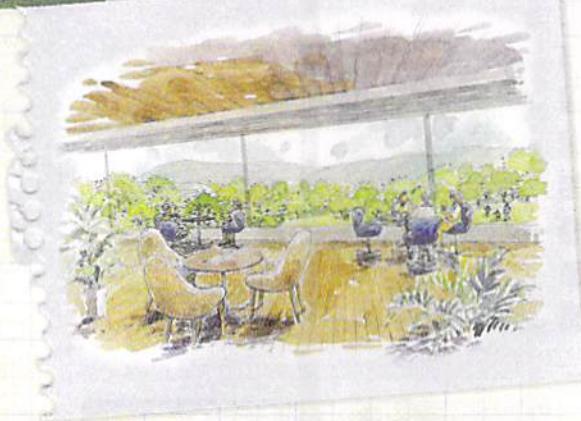
- ・ 教育機関や大学等の研究機関と連携し、教育及び研究活動を推進するための施設を整備する
- ・ 楽しみながら学ぶための情報発信機能を備えた施設を整備する
- ・ 京都の自然への導入口として、地域環境や野生動物の現状を伝えられる施設を整備する

## ア-計画概要

- 生涯学習施設にふさわしい、展示室、多目的ホール・会議室、動物図書館・どうぶつえほん館、ZOOカフェなど、敷地を最大限有効活用して整備する。
- 生息域外での「種の保存」に取り組むために必要な施設として、人工授精、人工ふ化、人工ほぐす、治療及び一時収容施設等の充実、整備を行う。
- 野生鳥獣救護センターでは、動物の保護・治療・研究だけでなく、傷病鳥獣の展示スペースを整備し、地域環境を含めた環境教育を推進する。

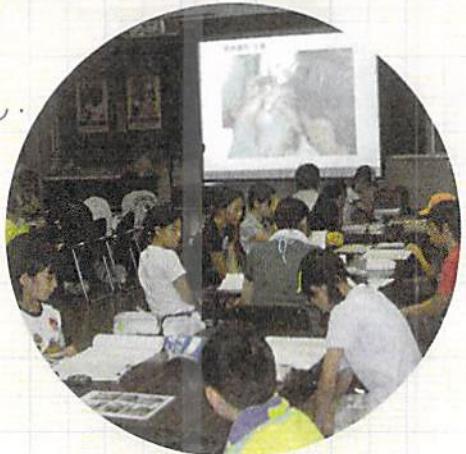
## イ-施設整備計画

- 学習施設・事務所棟の建替え
- 医療施設の建替え
- 野生鳥獣救護センターの建替え
- 小獣舎の撤去
- キジ舎の撤去



## ウ-主な施設

- 学習施設（研究成果の展示室、多目的ホール・会議室、動物図書館・どうぶつえほん館、ZOOカフェ）
- 医療施設
- 野生鳥獣救護センター



# 利便施設・休憩エリア

## 整備事業

ゾーン面積：約9000m<sup>2</sup>

### 基本テーマ

- ・全ての入園者に配慮した施設とする
- ・琵琶湖疏水や東山借景を活かした快適で緑豊かな空間づくりを目指す
- ・市民や企業との協働による活性化を図り、「近くで楽しい動物園」づくりを推進する拠点として整備する

### ア-計画概要

- 新たに、正門を北西側の二条通岡崎道角に設け、楽しく、魅力あるエントランスを演出する。
- 琵琶湖疏水記念館側連絡口に入園口機能の整備を行い、地下鉄「蹴上駅」からのアクセスを向上させることで、公共交通機関の利用を促進する。加えて、自転車専用の駐輪場を整備する。
- 全ての入園者にとって、快適で利便性に優れた休憩所や温水洗浄便座付トイレ、快適で利便性に優れた休憩所やトイレ、授乳室等を整備する。
- 遊具を観覧車※を中心とした園中央部に集約し、どこか懐かしい雰囲気の中で、子ども達が安心して遊べる環境を整える。
- 外からも利用できる特徴のあるレストラン、売店等のサービス施設を整備し、入園者の「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」の顧客満足度（CS）を向上し、リピーターの確保を目指す。
- 環境に配慮するとともに、京都らしさを感じさせる外周及び園路整備を行う。
- 手すりやベンチに木材を用い、木のぬくもりが感じられる施設とする。
- 教育機関等の団体利用にともない、大型バス用の乗降場を整備する。

※ 観覧車 高さ12m、直径10mと小規模だが、昭和31年に設置された現役最古参クラスの観覧車。平成20年6月には、朝日新聞の「勝手に関西世界遺産」に登録され、再評価される。

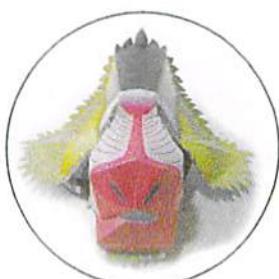
### イ-施設整備計画

- 芝生広場の整備
- 中央売店の建替え
- 雨天休憩所の改修
- 大水禽舎の撤去
- フクロウ舎の撤去
- 正面エントランスの整備
- 東門エントランスの整備
- 中央休憩エリアの整備



# 利便施設・休憩エリア

## 整備事業



### ウ-主な施設

#### 西エリア

- 入園・案内 エントランス、インフォメーション、駐輪場、大型バス用乗降場、タクシー降り場
- 飲食、物販 レストラン、スープニアショップ（土産店）（学習施設内）
- 休憩 トイレ、授乳室、救護室（学習施設内）、休憩所、芝生広場
- 管理施設 事務管理棟（学習施設内）、汚水処理設備、電気設備 他

#### 中央エリア

- 案内 インフォメーション
- 飲食、物販 カフェテリア、スープニアショップ（土産店）
- 休憩 休憩所、トイレ、授乳室、芝生広場
- 遊具 子ども広場、遊園地

#### 東エリア

- 案内 インフォメーション
- 飲食 レストラン
- 休憩 雨天休憩所、トイレ、授乳室、芝生広場

## 基本テーマ

- ・ 工作所や資材置き場等の管理施設を整備し、園全体のバックヤードエリアとしての機能を持たせる
- ・ 飼育、研究施設として、人工授精、人工ふ化、人工ほ育及び一時収容を行うための施設を整備する

## ア-計画概要

- 「安全で安心な動物園」とするために、十分な感染症対策が取れるよう観覧区域と隔離し、防疫体制を整える。
- 工作所や資材置き場等の管理施設を整備し、園全体のバックヤードとしての機能を集約する。

## イ-施設整備計画

- ツシマヤマネコ繁殖棟の整備
- 予備舎の改修、整備
- クマ舎の撤去
- 走鳥類舎の撤去
- シマウマ舎の撤去
- 飼育研究棟、繁殖棟の整備
- 工作所の整備



ゾーン面積：約1750m<sup>2</sup>

## ウ-主な施設

- 繁殖、防疫等のための飼育研究棟
  - ツシマヤマネコ繁殖棟
  - 予備舎
  - 工作所
- (資材置場、堆肥場、ゴミ集積場等)



# 5

## 活性化に 向けた取組

### (1) 基本方針

- ア 教育プログラムの策定
- イ 市民との共汗でつくる動物園
- ウ サービスの向上
- エ 新たな入園者の開拓

### (2) 教育プログラムの策定

- ア 教育プログラム策定のコンセプト

### (3) 市民との共汗でつくる動物園

- ア 活動の拠点づくりの推進
- イ 活性化の継続に向けた事業やイベントの推進
- ウ 資料公開の推進
- エ 情報発信の推進

### (4) サービスの向上

- ア 全ての施設利用者に配慮した施設づくり
- イ 顧客満足度(CS)の高いサービスの提供

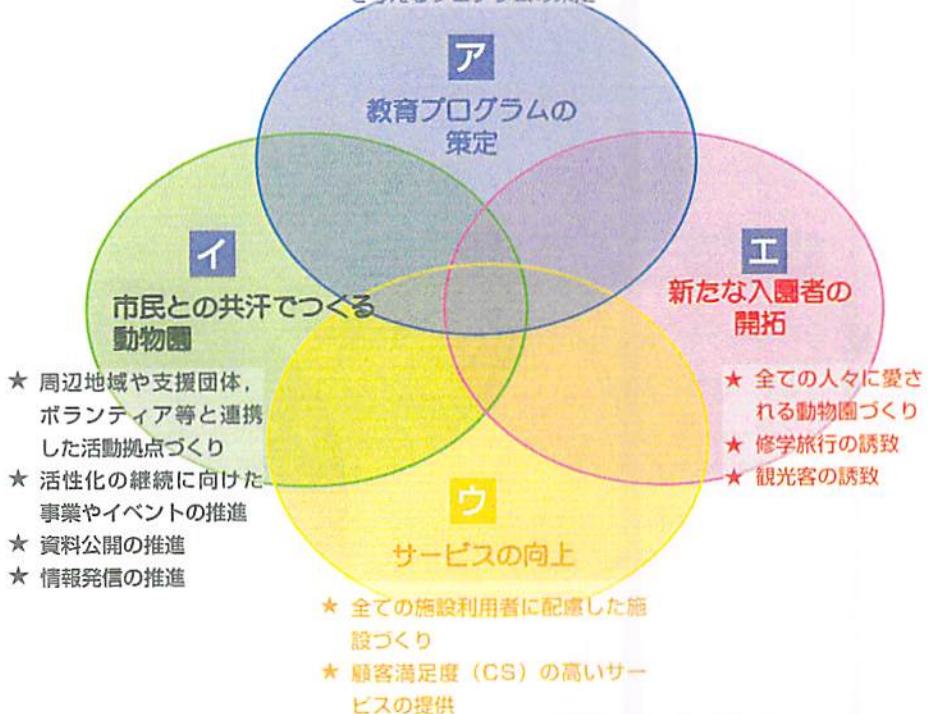
### (4) 新たな入園者の開拓

- ア 全ての人々に愛される動物園づくり
- イ 修学旅行の誘致
- ウ 観光客の誘致

## 1 基本方針

- ア 教育プログラムの策定
- イ 市民との共汗でつくる動物園
- ウ サービスの向上
- エ 新たな入園者の開拓

- ★ これまでの取組の体系的見直し
- ★ 全ての世代の人々に、常に感動を与えるプログラムの策定



## 2 教育プログラムの策定

### ア 教育プログラム策定のコンセプト

- これまで実施してきた様々な教育の取組を体系的に見直し、子ども達や高齢者をはじめ、全ての世代の人々に、常に新鮮な感動を与えることができるよう、他の動物園の後追いではない、環境教育や野生動物の保全に必要な「教育プログラム」を策定する。

#### 具体的な取組

##### ■ 体験型の教育プログラムの開発と実施

- 動物園を環境教育の体験学習の場として位置付け、各年齢層に応じて、動物や自然との関わりを体験できる多様な教育プログラムを開発・実施する。

##### ■ 生と死が実感できる「いのちの教育」の実施

- 飼育展示している動物の生や死の告知の徹底や、野生鳥獣救護センターの救護活動の報告、講演等で、飼育員の動物飼育上の体験に基づいた、生と死について実感できる機会を提供する等「いのちの教育」を実施する。

##### ■ 野生動物の現状と保全の取組を伝える環境教育の開発と実施

- 京都大学野生動物研究センターとの連携により得られるアフリカやアジアでの野生の類人猿の研究成果情報や保全活動の状況、現地で保全活動を行っているNPO/NGOの協力を得て、絶滅のおそれのある野生動物の現地での状況と保全の取組を題材にしたタイムリーな環境教育を開発・実施する。

##### ■ IT（情報技術）を利用したプログラムの提供

- 園内ナビ「野生への窓」※1を構築し、一般の入園者や学校団体など利用者の属性に合わせたコンテンツを開発する。
- 学校単位で動物園を訪れるグループに対して、事前および事後の授業を実践するためにITを利用した、動物園と教育現場を双方向で結ぶネット授業の実用化に向けた取組を進める。なお、プログラムの作成に当たっては、教育委員会と連携して学習指導要領に基づいた内容で、利用しやすいシステムとする。
- 園内ナビ及び講演向け資料として、ライブ映像の配信システムや映像コンテンツの整備を進める。

##### ■ 案内サインの充実

- 掲示板の情報内容や表記などのガイドラインを作成する。
- 足跡や手がたを利用した見学用通路を整備する。

##### ■ 教育開発プロジェクトチームの立ち上げ

- 教育関係者と協働で教育プログラムを策定するためにプロジェクトチームを設置し、検討・開発を行う。

※1 園内ナビ「野生への窓」

携帯用コンピュータ端末機器を利用した園内ナビゲーションシステム。  
ICタグやQRコード、GPSを活用して、動物の生態・行動・個体の特徴等や野生での現状に関する情報発信を行う。あわせて、周辺の動物情報などを提供する。

### 3 市民との共汗でつくる動物園

#### ア 活動の拠点づくりの推進

- 周辺地域や支援団体、ボランティア等と連携した活動の拠点づくりを進める。

##### 具体的な取組

###### ■ 市民との共汗による動物園運営

- ふれあい広場「おとぎの国」で活動する「京都市動物園ボランティアーズ」に加え、環境保全に取り組むNPOなどと協力して園庭整備を行う「環境ボランティア」や、動物舎の説明を行う「ガイドボランティア」等市民ボランティアの活動範囲を拡大し、多くの市民との共汗による動物園運営を進める。
- 周辺の地域や学校に催しの案内や「動物園だより」の配布等、積極的に情報を発信するとともに、岡崎地域全体の「にぎわい」創出のために、すでに取り組んでいる桜のライトアップ、オータムフェスタ、スタンプラリーなど美術館、国際交流会館、みやこメッセ、地元商店街等と協力したイベント開催などの取組を推進する。

###### ■ 「近くで楽しい動物園」の実現に向けた諸制度の整備

- 動物園運営に参画いただくための個人等を対象にした、動物の飼育環境整備の支援を行う「動物サポーター」制度を導入する。
- 動物舎の整備を企業、法人等の支援を得ながら行う「動物舎パビリオン」制度を創設する。
- 入園者から広く寄付を募り、また、園内に設置されているジュース等自動販売機、「寄附金付自動販売機」へ交換することを検討する。

###### ■ 身近な支援拠点

- WWFの募金箱（パンダ型）を設置し、寄付を行っている。
- 日本動物園水族館協会の募金箱（ペンギン型）を設置し、集まった資金は野生動物に関する研究や調査費の助成に使用されている。

#### イ 活性化の継続に向けた事業やイベントの推進

- 活性化の継続に向けた事業やイベントについて、企画を募集するなど顧客ニーズを的確に把握し、魅力ある動物園づくりを進める。

##### 具体的な取組

###### ■ 平日の取組

- 週末に開催している人気イベント「ごはんですよ」の平日開催や雨の日イベントとして動物ビデオ上映などを検討する。また、飼育の日（4月19日）、オウムインコの日（6月15日）、バクの日（8月9日）などを実施する。

###### ■ 顧客満足度（CS）と顧客動向の把握

- 各種事業やイベントの参加者を対象としたアンケート調査だけでなく、未就学児童を持つ保護者、小中学校の児童・生徒・先生など対象を限定したアンケート調査を実施する。
- 広く顧客動向やニーズを把握するため、定期的に入園者アンケートを行い、更なるイベント等の充実を図る。

###### ■ 「夜の動物園」の開催

- 平成20（2008）年11月に実施した「秋の夜長の園内ツアー」では、応募30名に対し、応募者数は915名に達した。このように、普段では見られない動物園を見たいという御要望が多いことを受け、入園者の安全確保と動物福祉の観点から園路整備等を進め、「夜の動物園」開催を検討する。

###### ■ 京都らしさをPR

- 券売改札やショップなどで和装を取り入れるなど京都らしさをアピールすることを検討する。

## ウ 資料公開の推進

- 各種の所蔵資料について研究や調査を進めるとともに、目録、解説書や案内書、データベースを作成し、資料の公開を推進する。
- 野生鳥獣救護センターにおける保護状況（窓ガラスへの衝突、交通事故等）や地域環境についての情報を公開するとともに、保護個体の展示を含めて環境教育に役立つ資料公開を推進する。

## エ 情報発信の推進

- 常に新鮮な情報提供を行い、公共交通機関等との連携による広報・宣伝活動、情報発信の拠点づくりを進める。

### 具体的な取組

#### ■ ウェブサイトのリニューアル

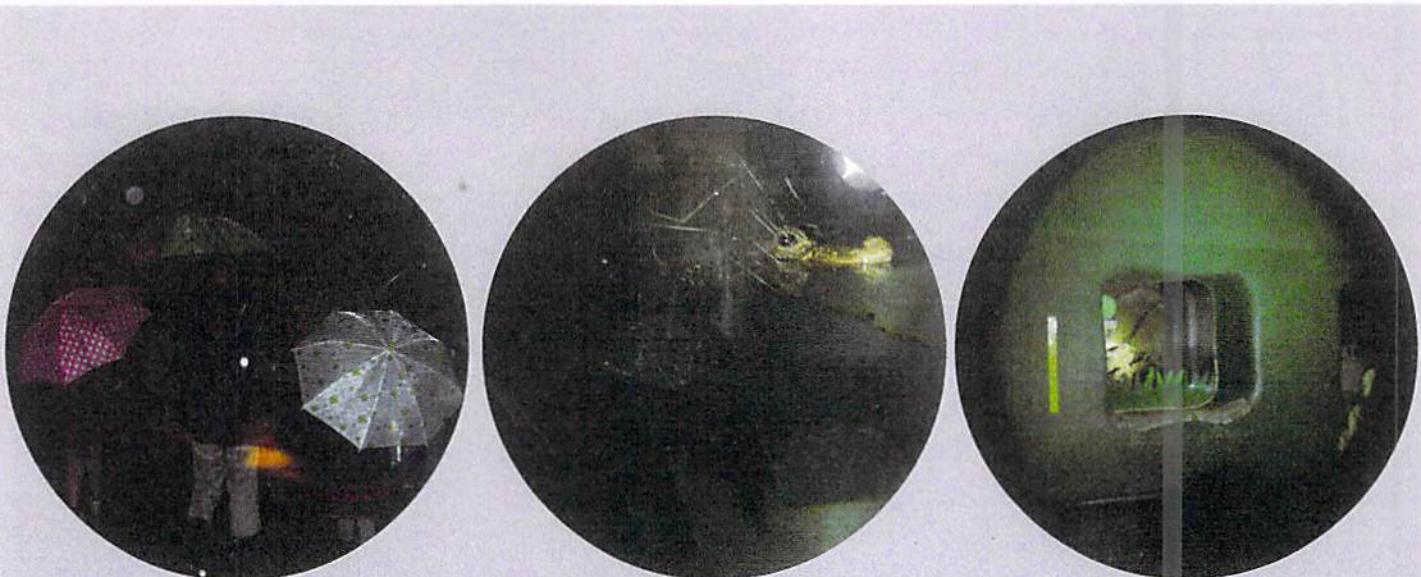
- ・ 動物情報やイベント情報等をタイムリーに発信するだけでなく、動物の動画や鳴き声、飼育日誌（ブログ）等の新しい情報を発信する。
- ・ 動物園の現状及び将来の動物園像を3Dで紹介するとともに、その整備過程についても情報発信をする「サイバーホーム動物園」を開園する。
- ・ 動物園利用のための各種申請書等のダウンロードや、市民や利用者の意見等書き込みコーナーを設ける。
- ・ 携帯サイトを開設する。
- ・ 動物園運営に参画いただくための個人等を対象にした、動物の飼育環境整備の支援を行う「動物サポーター」専用サイトを開設し、メールマガジンを発行する。
- ・ 外国語の案内ページについても検討する。

#### ■ 宣伝活動の推進

- ・ 岡崎地域の宿泊施設や飲食店はもとより、旅行代理店等への情報の提供、百貨店や大型スーパー、さらには近隣府県の教育委員会に情報提供と宣伝活動を進めること。

#### ■ 案内の充実

- ・ 公共交通機関の利用者などの来園者向けに、案内サイクルを歩道に設置する等充実を図る。
- ・ 三条神宮道、仁王門神宮道、南禅寺の交差点に案内板の設置を検討する。



# 4 サービスの向上

## ア 全ての施設利用者に配慮した施設づくり

- 緑豊かで快適な休憩空間づくりを目指し、屋内外の休憩所、トイレ、授乳室等は、全ての施設利用者に配慮した施設づくりを進める。

### 具体的な取組

#### ■ ユニバーサルデザイン化の推進

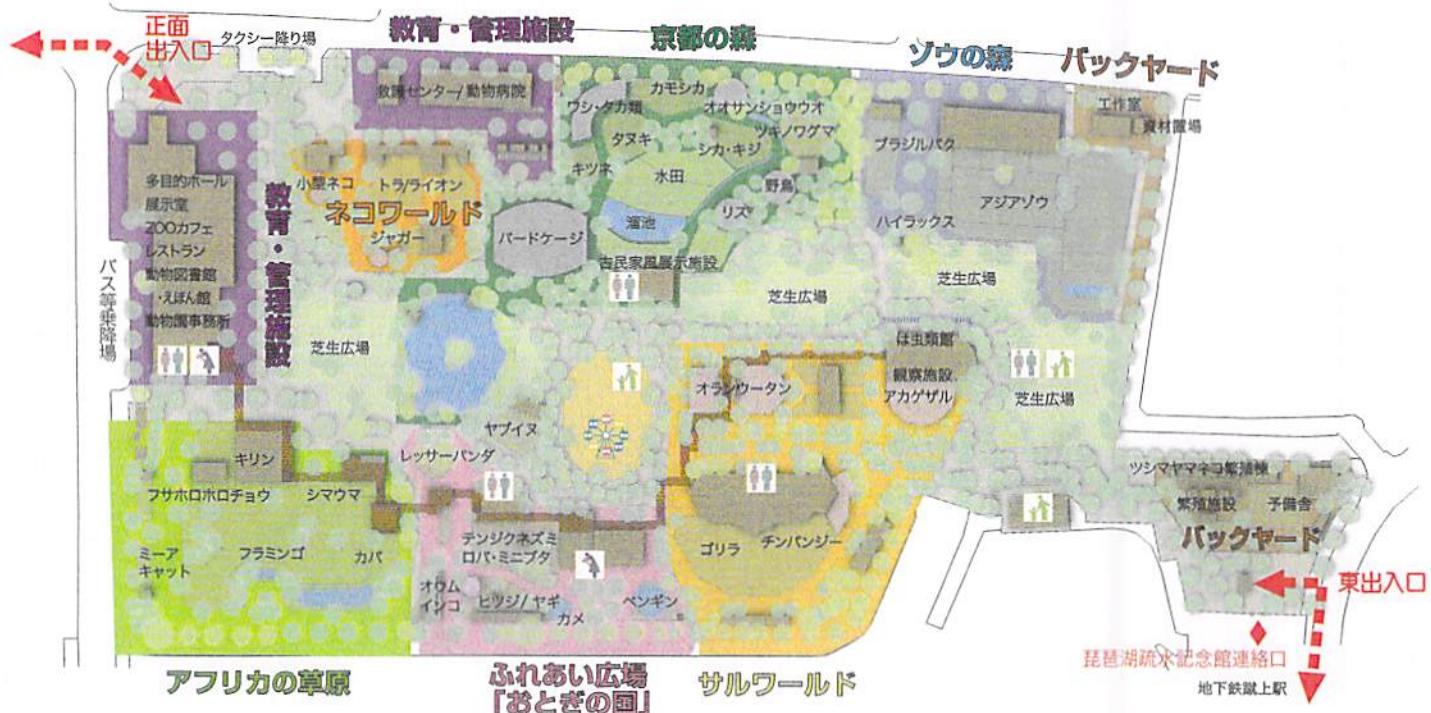
- ・現行の自然を活かした園路を基本的に保持しつつ、車椅子の方等にも配慮し、一部舗装を行うほか、ボランティアの活用などによる施設のユニバーサルデザイン化を推進する。

#### ■ 清潔、快適な利便施設の再整備

- ・休憩所、トイレ、授乳室等は清潔で快適を目指して再整備を行う。

#### ■ アクセスの改善整備

- ・岡崎地域にある動物園として他の観光施設との連絡や周遊性や、公共交通機関の利用促進の観点から、上下水道局「琵琶湖疏水記念館」に通じる東出入口を開設し、市営地下鉄「東山駅」に加え「蹴上駅」を最寄駅とする。



## イ 顧客満足度（CS）の高いサービスの提供

- 個性ある「レストラン」、「ショップ」で、入園者の思い出に残るような「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を大切にした、顧客満足度（CS）の高い施設づくりを進める。

### 具体的な取組

#### ■ オリジナルメニューの提供

- 園内レストランでは、動物の餌を模したランチ等、動物園ならではのメニューや京風弁当等、地産地消を取り入れた京都ならではのメニューを提供する。



#### ■ 「オフィシャルショップ」の開設

- 企業等の協力で、オリジナルグッズを販売する「オフィシャルショップ」を設け、集客効果のある商品を販売する。売上げの一部は、施設整備等に充てる。



# 5 新たな入園者の開拓

## ア 全ての人々に愛される動物園づくり

- これまで多くの「子ども」を対象に、飼育員や獣医、ボランティアなどが、動物園事業やイベント等に工夫を凝らし、入園者数増加に取り組んできたが、今後は新たな年代層の集客を目指す。

### 具体的な取組

#### ■ イベントの新たな展開

- 中高生やカップル層、シニア層等、ターゲットを絞ったイベント等を実施する。

## イ 修学旅行の誘致

- 中高生の修学旅行やグループ行動を積極的に誘致する。

### 具体的な取組

#### ■ 京都市観光協会「きょうと修学旅行ナビ」に参画

- 市バスや地下鉄利用の修学旅行生を誘致する。

#### ■ 思い出や印象に残るようなオリジナルグッズの開発、販売

#### ■ 学習施設としての動物園の情報を発信

## ウ 観光客の誘致

- 岡崎公園内にあることを生かし、積極的に各旅行会社や岡崎地域の宿泊施設飲食店等にもイベント情報の提供等を行い、観光客に対する情報発信やサービスの向上を図る。

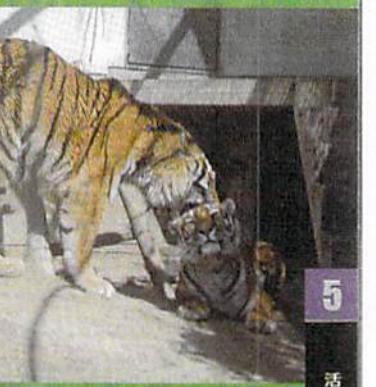
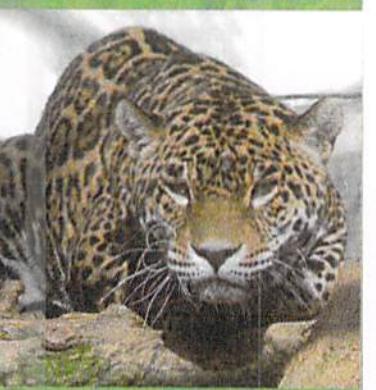
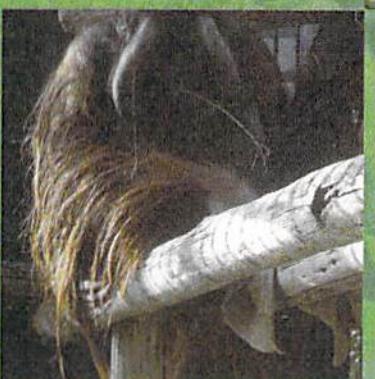
### 具体的な取組

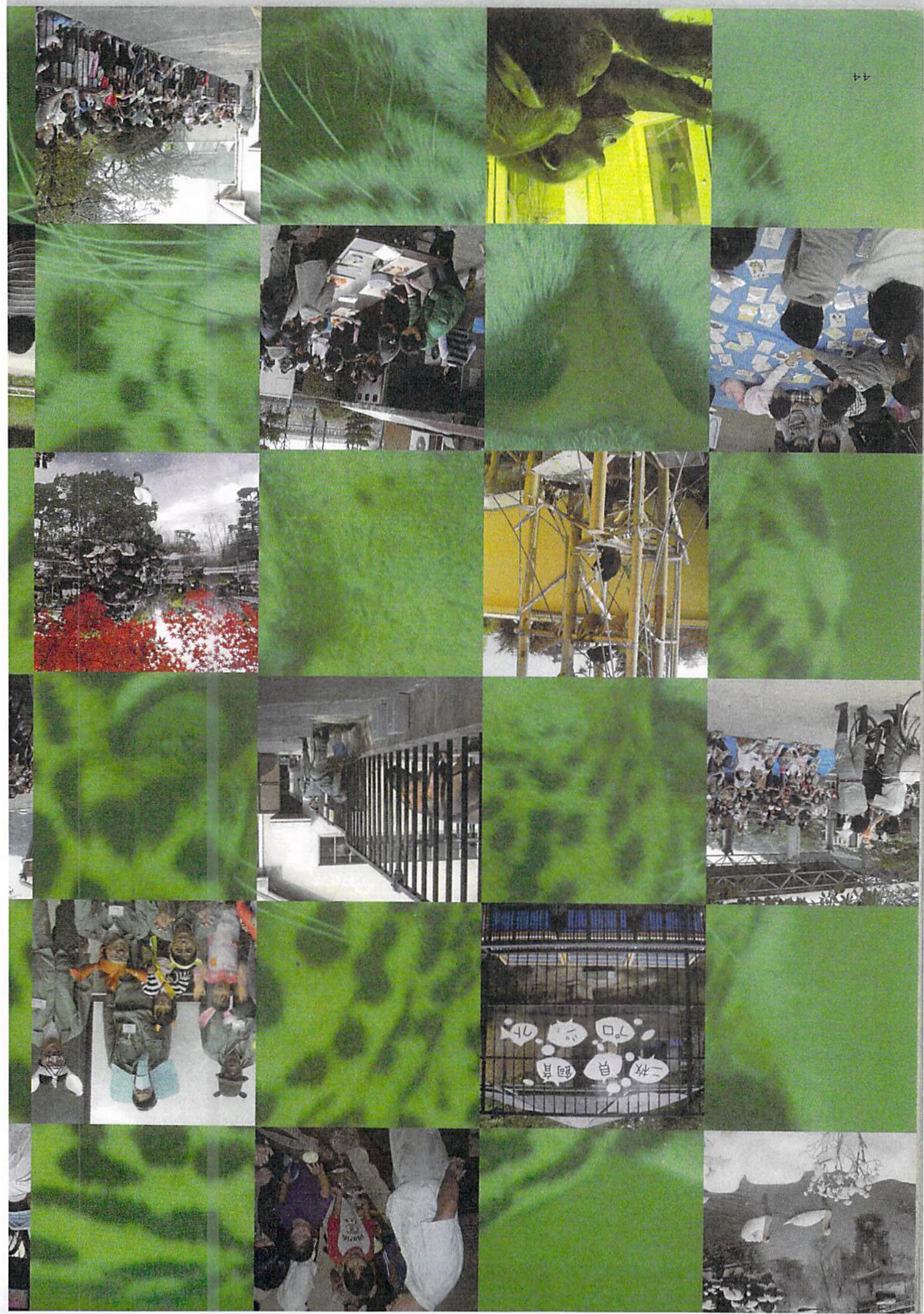
#### ■ 歴史的な史跡をPR

- 岡崎界隈の観光地の一つとして、動物園敷地が平安時代に建立された法勝寺南半分の遺構であり、八角九重塔の跡地があることもPRし、京都定期観光バスコースへの編入ができないか検討する。

#### ■ 「歩いて楽しいまちなか」戦略に参画

- 東側出入口を開設することで、南禅寺・琵琶湖疏水記念館から平安神宮への導線となり、観光客の利便性を兼ねるだけでなく、環境に配慮した「歩いて楽しいまちなか」戦略に積極的に参画する。





# 各種の動物園事業やイベント

- |              |           |   |
|--------------|-----------|---|
| 春と秋の土日祝日12日間 | <b>1</b>  | 日曜祝日映画会   |
| 年1回3日間       | <b>2</b>  | 小学生サマースクール  |
| 年1回実施        | <b>3</b>  | 中学生動物園教室  |
| 年1回実施        | <b>4</b>  | 動物愛護週間事業  |
| 毎月実施         | <b>5</b>  | 飼育員の動物ガイド   |
| 毎月2回実施       | <b>6</b>  | ごはんですよ～!  |
| 毎月1回実施       | <b>7</b>  | 獣医が行く!  |
| 毎月実施         | <b>8</b>  | 動物のお宅拝見! キリン舎, ゾウ舎, カバ舎                                     |
| 毎月実施         | <b>9</b>  | ふれあい体験 キリン, ゾウ, カバ, ヘビ, ペンギン, シマウマ, ブラジルバク                  |
| 年2回実施        | <b>10</b> | 一日動物園体験   |
| 年1回実施        | <b>11</b> | 動物のごはん作りをお手伝い   |
| 年2回実施        | <b>12</b> | バックヤードツアー   |
| 年3回実施        | <b>13</b> | クイズラリー 問題用紙を配布し、園内を回りながら動物クイズに答えてもらう。                       |
| 年3回実施        | <b>14</b> | クイズツアー 園内を職員と一緒に回りながら動物を観察してその場でクイズに挑戦。                     |
| 年3回実施        | <b>15</b> | オリジナル紙芝居  |
| 年1回実施        | <b>16</b> | 春の動物人気投票  |
| 年1回実施        | <b>17</b> | ヒツジの毛がり   |
| 年1回実施        | <b>18</b> | 七タスペシャル企画「あなたの願い叶えます」<br>普段経験できない動物園<br>ならではの<br>願いごとを叶える催し |
| 年1回実施        | <b>19</b> | 鳥の羽でストラップを作ろう   |
| 年1回実施        | <b>20</b> | 立体お面をつくろう   |
| 年1回実施        | <b>21</b> | 動物のお耳をつくってみよう   |
| 年1回実施        | <b>22</b> | 氷のプレゼント   |
| 各年1回実施       | <b>23</b> | カバ, ゾウ, キリンの体重測定  |
| 年2回実施        | <b>24</b> | サル温泉(アカゲザル)   |
| 年1回実施        | <b>25</b> | ゴリラのお庭に木を植えよう   |
| 年1回実施        | <b>26</b> | オウム・インコの日   |
| 年1回実施        | <b>27</b> | バクの日  |
| 年1回実施        | <b>28</b> | 秋の夜長の園内ツアー  |





## 共汗でつくる新「京都市動物園構想」

発行人 京都市動物園

〒606-8333 京都市左京区岡崎法勝寺町 岡崎公園内  
TEL 075-771-0210 FAX 075-752-1974  
<http://www5.city.kyoto.jp/zoo/>

発 行

2009年11月20日

文化市民局 動物園 京都市印刷物 第213164号



〒606-8333 京都市左京区岡崎法勝寺町 岡崎公園内

TEL 075-771-0210

FAX 075-752-1974

<http://www5.city.kyoto.jp/zoo/>